

小規模私立大学における障害学生支援体制 ～導入2年目の実践での成果と課題～

○荒木史代・竹田周平・譽田優子・田邊奈美・笠井利浩・瀨本一哉・山中大貴(福井工業大学)・小柳喜代美



目的 PDCAサイクルにて取り組んだ障害学生支援2年目の実践内容を検証する。

平成25年度 (準備段階)

ニーズアセスメント(実態把握)、情報収集(他大学視察・研修参加)、
規程・書類の試作、組織編製の準備、学生支援の試行

平成26年度 (1年目)

障害学生支援委員会の開催(月1回)、規程の施行・学生への個別支援の実施
入学予定者の移行支援、支援についての情報公開(大学HP)

福井工業大学では、障害のある学生や、何らかの支援を必要としている学生に対して、
修学面の支援を行っております。



平成27年度 (2年目)

PLAN

- ① 障害学生支援委員会委員に就職支援課職員を追加(4月～)
- ② 移行支援体制の整備
- ③ 教職員への障害学生支援体制の周知のための研修会の実施
- ④ 学生への個別支援(修学支援)

DO

① 障害学生支援委員会の開催(月1回) …a

委員会メンバー：委員長(学長補佐)、副委員長(学生生活支援室担当教員・臨床心理士)、
教員1名(学生生活部会主査)、学務課長、**就職支援課課長代理**
学生生活支援室職員2名(臨床心理士・保健師)、医務室職員1名(看護師)

② 附属高校との移行支援を年2回実施(7月・3月) …b

高校側；**特別支援・教育相談委員会** 大学側；**障害学生支援委員会**

○第1回 移行支援会議(7月)

平成27年度入学生のうち、気がかりな学生(大学)、要支援学生4名(高校)について情報共有

○第2回 移行支援会議(3月)

平成28年入学予定者名簿を事前に提出(大学側)、要支援生徒11名(高校)について情報共有
第1回移行支援会議で情報共有した学生のフィードバック(大学)

③ 教職員対象の障害学生支援体制の周知のための研修会の実施(9月) …c

テーマ「本学における障害学生支援の実践」

全体説明；本学の障害学生支援体 シンポジウム；発達障害学生の修学支援—事例から考える(事例提供；本学教員)

④ 学生への個別支援(修学支援)の実施 …d

支援申請を行った学生2名に対して、個別支援部会で支援決定し、修学支援を実施した。

○ 成果

- a) キャリア支援を含めた本学の障害学生支援体制の課題を適宜検討可能
- b) 組織的な移行支援が可能→ 附属高校との移行支援会議は、次年度以降年2回開催。
- c) 研修会参加者(事後アンケート回答者74名)の内95%が「今後の教育活動に役立つと思う」に回答。

✕ 課題

- a) 平成28年4月施行の「障害者差別解消法」に向けた支援体制の整備、学内周知。
- b) 移行支援会議で情報共有した学生情報の取り扱いが課題。
- d) 修学支援を実施した学生の支援内容検証時の担当者が不明確。

CHECK

ACTION

- a) 「障害者差別解消法」施行による体制整備に向け、委員会メンバーがJASSO等主催の研修会に参加し、情報収集。
- b) 当面、障害学生支援委員会メンバーと学科長のみで情報を共有する。
- d) 「修学支援実施状況報告書」の書式を修正(学科長名での報告に修正)

平成28年度 (3年目)

PLAN

★平成28年度の支援体制に関する主な実施計画

支援体制の充実

「対応要領(規程)」の作成

障害学生支援に関するマニュアルの作成

平成25年度の障害学生支援体制整備準備段階からのスタッフの異動への対応

「障害者差別解消法」の教職員への周知

2年目の成

障害学生支援委員会の継続・稼働による組織的な支援の実施

- ・ 毎月委員会を開催することで、支援で生じた課題をタイムリーに適時検証(評価・修正)できる。
- ・ 委員会(組織)で支援体制や実践を振り返ることで、今後に向けた課題を明確にし、共有ができる。

今後の課題

個々の学生の多様なニーズへの「合理的配慮」の検討 教職員の異動による障害学生支援スタッフの育成